

P2～P5

世代を越えて環境を守り継ぐ

～水と生き物の生命が
私たちに伝えること～

レポート；団体活動交流会 **New!**

団体紹介 **New!**

P6

市民活動お役立ち情報

活動するための“お金”①「助成金・補助金」

P6.

編集スタッフのつぶやき

今月の表紙「水を守ることの大切さを伝えたい」

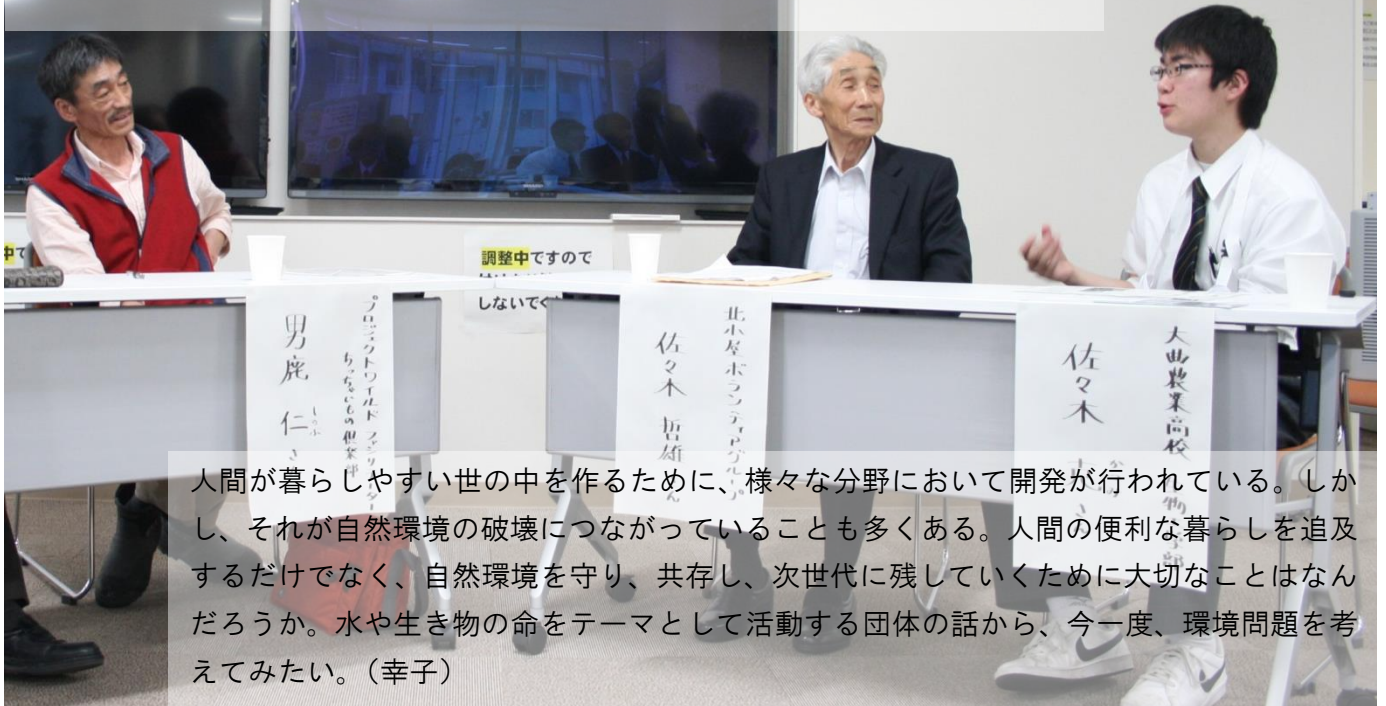
「わあ～重たい！あ、何かが動いているよ」

目を輝かせながら、夢中で泥をすくう子どもたち。水がなくなった網の中をのぞくとイバラトミヨやオタマジャクシなどがはねていました。

5月16日（金）美郷町土崎の千畑小学校で行われたピオトープ（生き物がありのままに生息できる場）清掃の一コマです。この活動は、同地区で湧水や絶滅危惧種「イバラトミヨ」を保全する土崎自治会ボランティアグループが、学校や地元企業との協働により行っているものです。イバラトミヨは湧水の中だけでは生息できない生き物。小さな命に触れた子どもたちの心には、きれいなままの湧水を守っていくことが生き物や人間にとって大切なことだという想いが芽生えたことでしょうか。（世代を越えて環境を守り継ぐ～水と生き物の生命が私たちに伝えること～）

世代を越えて環境を守り継ぐ

～水と生き物の生命が私たちに伝えること～



人間が暮らしやすい世の中を作るために、様々な分野において開発が行われている。しかし、それが自然環境の破壊につながっていることも多くある。人間の便利な暮らしを追及するだけでなく、自然環境を守り、共存し、次世代に残していくために大切なことはなんだろうか。水や生き物の命をテーマとして活動する団体の話から、今一度、環境問題を考えてみたい。(幸子)

それぞれの活動内容は

克 私たち大曲農業高校生物工学部では、田沢湖*1を生物が生きられる湖にしたいと考えました。きっかけは平成22年、田沢湖で絶滅してしまったクニマスが山梨県の西湖で発見されたことでした。それを知った先輩たちが、将来、クニマスが里帰りできる田沢湖にするために、自分たちにも何かできないかと考えたのだそうです。現在、湖水は酸性水で、なかなか生物が生きられる環境にはありません。現在は、石灰石を用いて中和させているようですが、自分たちは電気分解という方法で中性化できないかと考え、実験段階では成功させることができました。今後、中性化した田沢湖の水を使って金魚の飼育などができるのかと計画中です。

哲雄 土崎自治会ボランティアグループは、平成13年から地域の湧水を守る活動をしています。きっかけは、平成10年度に低コストで大量生産できる農業を行うための水田整備工事が始まったこと。しかし、地区内の湧水に絶滅危惧種のイバラトミヨが生息していることが分かり、生態系に配慮した工事を行うことになりました。ところが、前例がなかった。そこで行政や専門家、地区の関係者などで構成する連絡調整会議が立ち上がりました。私も一員として参加するうちに、住民による環境保全活動も同時に行っていかなければならないと感じ、ボランティアグループを立ち上げました。活動内容は、湧水周辺の草刈やクリーンアップ。千畑小学校の子どもたちと学校に設けられたピオトープ*2の清掃活動も行い、水を守ることの大切さを伝えていきます。

男鹿 私は、ProjectWILD*3 という環境教育の指導者資格を取得し、また、指導者を

養成するための講習会を開催しています。取り組みを始めたきっかけですが、実は子どもと馬とがふれあう機会を作りたいと考えて、平成19年に、ちっちゃいもの倶楽部という団体を立ち上げたことでした。活動するうちに、馬の生育が環境の循環になっっていることに気がついたのです。つまり、馬は草を食べ、糞をし、その糞が堆肥化すると土の栄養となつて草が生えてくるという環境循環、つまりサイクルの考え方は、これまでもたちの学びとして活用できると考え、環境教育の勉強を始めました。現在は指導者養成のほかに、ちっちゃいもの倶楽部としても子どもたちを対象とした環境教育を行っています。

田沢湖の酸性化とクニマス全滅の歴史は、生態系を無視して人間の豊かな暮らしを求めた結果、環境汚染を引き起こしてしまつた事例ですよ。大曲農業高校の取り組みが悪化した環境を元の姿に戻そうというものならば、土崎自治会ボランティアグループの活動は、開発による悲劇を起こさぬよう、ありのままの環境を守つていくとすると科学的に。科学技術が発達し始めた頃、生態系を無視した開発を進めることがいかに人間や生物の命にとって重大な危険を及ぼすものなのか気がついていれば。

克 今のお話を受けて、私たちの活動は入口こそ異なりますが、共通した問題への取り組みなのだと感じました。

男鹿 全体で取り組まなければならないことなんですよ。

哲雄 そうなんですよ。環境保全活動は、一団体だけで行うのは厳しいと感じます。私たちも当初、北小屋という小さな集落の住民中心のグループでした。しかし、



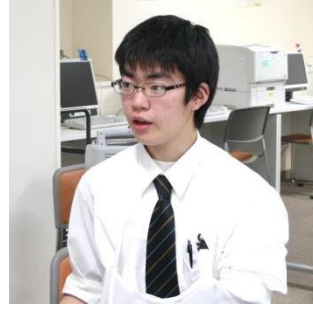
男鹿 仁
Shinobu Oga

ProjectWILD
ファシリテーター



佐々木 哲雄
Tetsuo Sasaki

土崎自治会ボランティア
グループ
代表



佐々木 克
Katsumi Sasaki

大曲農業高等学校
生物工学部
2年生

活動するうちに、環境というものは一カ所の問題ではないので、地域全体の活動として守らなくてはならないと感じるようになり、自治会を巻き込んだ活動に形を変えていったんですよ。

克 私たちも高校生なので、自分たちだけではできないことが生まれてきました。

哲雄 私は、高校生が水環境の問題に関心を持って取り組んでいることを知り、とても嬉しかったですよ。私たちの世代はインターネットを使うことができない人も多いので、今日初めて高校生の活動を知りました。ぜひ学校の外にも目を向けて、地域に自分たちの活動を発信してほしいです。自分たちだけでは解決できないことに直面しても、その取り組みの意義や熱意を伝えれば協力してくれる方が現れますよ。

克 ありがとうございます。私たちも、これまでの研究成果を発表して田沢湖の水質改善に役立てていきたいと考えているので、今後、ぜひ男鹿さんや哲雄さんのような団体の方や地域の方、行政の方と協力していきたいです。

男鹿 高校生のみなさんは、自分たちが考えたことをしっかり実践されていて素晴らしいですね。環境を保全していくためには、一人一人が行動していくことが必要です。そういった実践者を一人でも増やすために環境教育の指導者を養成しているのですが、秋田は自然が豊かな分、環境という面ではそれが侵されていることに気づこうとする人が少ないように感じます。課題です。

—実践者を増やすためには—
哲雄 水環境を守るということは、植物や動物、自然環境のためだけではなく、人間の生命にも関わる必要不可欠なこと。それ

団体活動交流会に参加して

大曲農業高校教諭 大沼克彦さん



世代の異なる方々から貴重なお話を伺って、生徒たちは「同じテーマで活動していても違う見方や取り組み方がいることが分かり、とても勉強になった」と話していました。水資源の重要性にも、改めて気がついたようです。

田沢湖の貯水量は、80億立方メートルあるといわれています。古いデータですが、日本国内で人間が利用している水の量は約800億立方メートル。その10分の1が田沢湖にあるのです。今後、世界的水不足が起ると予想されている中において、これが利用できるという可能性があれば守ることのできる生命があるかもしれないと思っています。

昨年度、仙北市で行われたクニマス里帰りフォーラムや種苗交換会でも活動発表させて頂くことができました。そこで出会った方から、田沢湖の砂はかつて「鳴き砂」だったという話を聞きました。砂が鳴らなくなった原因は、湖水を中和するために使用している石灰石が原因ではないかというお話でした。砂が鳴らなくなった原因は何か、自分たちの取り組みによって砂を元に戻せないかということも考えています。

私たちは一学校の一部活動です。しかし、ここからいろいろな試みをして、大曲仙北、そして秋田県、日本、世界全体へ、小さな波紋がもしも一石を投じていきたいと思っています。

を認識していかなければ、担い手を増やし、環境を守り続けていくことはできないと思います。水環境の問題は、この地域のことにとまらず国際的な問題でもありません。みなさんのような若い方たちが地域や日本、世界を引っ張っていつてくれると思うと心強いです。

男鹿 同時に、活動することの楽しさや喜びも大切にしていきたいですね。特に、子どもたちとの活動は、時間が経つことを忘れてしまう程です。地域の方から声をかけてもらえたり、様々な方々とつながったりできることも、活動の力になります。

哲雄 この環境を子どもたちやその先の世代にも残していくために、これからも実践を続けていきたいですね。

—今一度、自分たちの利便性や効率性を求めた暮らしとそれによって起きている自然環境への影響について意識し、一人一人にできることを考えていきたいですね。

6月の団体活動交流会

◆次回テーマ：「若者を支援する」

▽日時：6月14日（土）10～12時

▽場所：県南若者サポートステーションよこて（横手市横山町1-1 すゝやか横手内）

▽発表団体（予定）：秋田就職総合研究所（就職支援）／若者会議（社会参画支援等）／若者サポートステーションよこて（就労支援）

- *1 電源開発と農地開拓のために玉川の強酸性水を田沢湖へ導入。魚は死滅し、生態系に影響を与えた。
- *2 生物群集の生息空間を示す言葉
- *3 環境教育プログラム。野生動物の生息地を通して環境を学ぶ。教育現場でも使われている。

水環境をテーマに活動する団体をご紹介します。

全県

団体一覧・詳細

東成瀬

なるせ EM 研究会

【代表】谷藤怜子さん

【連絡先】0182-47-3104



横手

横手 EM 推進会

【会長】日高洋行さん【連絡先】0182-32-9560

秋田 EM フレンド

【代表】藤原秋夫さん【連絡先】0182-32-1950

十文字 EM 研究会

【会長】熊谷秋夫さん【連絡先】0182-42-2016

大仙

大仙市 EM による環境浄化研究会

【代表】太田欣次郎さん【連絡先】0187-63-6080

*EM 菌で米ヌカ・油カス・魚カスなどの有機物を発酵させた資材

EM 研究会・推進会

EM 菌とは自然界に生息する有用な微生物群の総称で、環境悪化の原因となる有害な菌を抑制し、浄化するなどの働きをされるといわれています。これを活用した水質浄化や生ゴミの堆肥化ができるということで注目されており、環境保全活動にも使われています。

東成瀬村で活動するなるせ EM 研究会は、村内の各家庭から出る生ゴミを資源化し、自然の循環を用いた環境にやさしい農業システム社会の構築を目指し、平成 13 年に設立されました。主な活動は、各家庭から出る生ごみの回収です。これを EM ポカシ*を用いて堆肥化し、各家庭に還元して自家農園に使ってもらっています。また、村の水環境の浄化を目的として、各家庭や学校に EM 活性液を配布し、浄化槽、トイレ、プール等に流し入れるなどの取り組みも行っています。これらの活動は、自治体や村の第 3 セクター秋田栗駒リゾート株式会社と協働して行っており、村全体に浸透しています。(幸子)

長楽寺農村公園保全会

古くから地域の水田を支えてきた大切な湧水を、自然のままの状態でも保全していくことを目的として設立されました。主な活動は、清掃活動や雑草取り、町内の子どもたちと共に行う絶滅危惧種「イバラトミヨ」、「ヤマトミクリ」の探索などです。また、平成 24 年より長楽寺農村公園内に水車を設置し、小水力発電を行っています。これは大正末期頃、豊川村で小水力発電を行っていた当時の様子を復元したものです。(藤井)

お知らせ

7 月第 1 土曜日 清掃活動

*活動への参加はお問い合わせください

団体詳細

【代表】鈴木清敏さん

【連絡先】090-5599-2950

【関連 URL】「大仙市ホームページ」から「長楽寺農村公園 水車のある村」で検索



大仙

横手川水辺のふれあいフェスタ実行委員会

横手川に関する活動を行う団体*のネットワークとして平成 14 年に設立されました。景観保全活動を次世代に引き継ぐことを目的として、団体同士が協力しあっています。水環境や水源の森を守る活動のほか、市民に横手川の豊かな自然と水辺の環境に親んでもらうためのイベント開催などを行っています。(幸子)

*横手川と水環境を考える会、横手川漁業協同組合、紫陽花回廊運動株主会、清水沢川にほたるを呼ぶ会など 20 団体

お知らせ

6 月 28 日 ホタルの鑑賞会

7 月 13 日 横手川沿いの紫陽花回廊に親しむイベント

団体詳細

【代表】下タ村正樹さん

【連絡先】0182-32-0564

【関連 URL】「横手市交流サイト」から「横手川水辺のふれあいフェスタ実行委員会」で検索



横手

美郷

水環境マイスター制度

美郷町では、平成 20 年 3 月に「美郷水環境保全条例」が制定され、全町をあげて水環境の 保全に務めています。水環境マイスター制度は、町の共有財産である恵まれた「水環境」を未来に引き継ぐことを目的として、保全活動のリーダーとなる人材を確保・育成しようと設けられました。「水環境マイスター養成講座」は年 4 回実施されており受講することで水環境マイスターの資格が与えられます。これまでに 34 人が資格を取得し、清水の美化や生物の保護に取り組んでいます。(椿谷)

制度詳細

【問合せ】町住民生活課環境安全班

【連絡先】0187-84-4903

【関連 URL】「水環境マイスター」で検索



東成瀬

東成瀬ホタルの会

「村の虫」であるホタルの保全活動を促進していくことを目的に平成 12 年に設立されました。小学校でのホタルの越冬飼育による生態の研究・勉強会の実施、人工飼育により育てた幼虫の放流、ホタルの生息調査や河川の水質測定、ホタルの観察会などを行っています。これらを通じて自然環境への意識の向上を推進しています。この夏、星空日本一に輝いたことのある東成瀬村で、満点の星空とホタルの乱舞を楽しんでみませんか。(藤井)

お知らせ

7月5日(土) 19:30~ ゲンジボタル観察会

【場所】東成瀬村岩井川付近 【定員】先着 30 人

* 詳細は東成瀬村の

HP等からご確認ください

団体詳細

【代表】佐々木克郎さん

【連絡先】0182-55-4301

【関連 URL】「東成瀬 ホタルの里づくり」で検索



次号掲載団体情報募集!

7 月 10 日号で紹介する団体交流会のテーマは「若者支援」です。若者による地域を元気にする活動や挑戦する若者を育成・応援する活動、ニート・ひきこもり等の若者の自立・就労支援活動、若者の出会いの場づくりや婚活支援など、若者に関わる活動をしている団体の情報を探しています。みなさんの活動を読者に届けてみませんか。

以下の情報をお寄せください

①団体名、代表者、連絡先／②活動を始めたきっかけ／③活動目的／④活動内容／⑤読者の方にお知らせしたいこと (イベント等の場合は、7 月 15 日以降の情報)

【〆切】6 月 23 日(月)

【送り先】南部市民活動サポートセンター

【TEL】0182-33-7002 【FAX】0182-33-7038

【メール】sachit@axel.ocn.ne.jp (高橋)

県南

あきたエコマイスター県南協議会

秋田県が主催する「環境あきた県民塾」*の修了生で組織されています。地域の環境保全活動をリードし、多くの人々がそれらの活動に参加する社会の実現を目指して平成 19 年に設立しました。今年は年 2 回、自然観察会を行う予定です。後三年の役などの史跡を巡りながら周囲の環境調査を行います。このほか自然環境保護への意識を高めるポスターの作成や地域クリーンアップへの参加など、メンバーの得意分野を生かして積極的に動いています。(椿谷)

* 環境問題について講義や体験学習を通して学ぶ講座。修了すると「あきたエコマイスター」として県に登録できる。

お知らせ

9 月 5 日 環境やエコに関する講演会

団体詳細

【代表】^{かずまさ}藤原万正さん

【連絡先】0187-63-2397

【関連 URL】「あきたエコマイスター県南協議会」で検索



THEMA



活動するための“お金”① 「助成金・補助金」

早いもので暑さが日に日に増し、衣替えの季節を迎えました。何かと忙しい時期ですが、新しい取り組みや次の活動の展開に向けて、事業を計画されているみなさんも多いと思います。

市民活動を行う上で、その活動の原資は「①会費」「②寄付金」「③事業収入」「④助成金・補助金」「⑤事業受託費」の5つに分けることができるといわれています。今回はそのうちの「助成金・補助金」について紹介します。(奥)

“お金”を出す側は何を達成したいのか

「こんな地域にしたい、そのためにこの活動をしていきたい」と考える市民活動団体と同じように、助成金や補助金を取り扱う助成財団等にも達成したい目標があります。そのため、市民活動団体が提案する事業がどんなに良いものであっても、助成財団等が考える目的に合わなければ助成金や補助金を得ることができません。まずは情報収集を行い、助成財団等のねらいを調べてみましょう。

助成金・補助金情報を収集しよう

助成金等の情報がまとめられているインターネットサイトがあります。さっそく検索してみましょう。

- ◆秋田県市民活動情報ネット
- ◆CANPAN (日本財団公益コミュニティサイト)

初めて助成金申請に挑戦する団体にオススメ!

- ◆秋田県少子化対策応援ファンド (7/10、9/10〆切)
- ◆あきたスグッチファンド (11/15〆切)

※サポセンでも、助成金等の情報を準備しています。

助成金・補助金情報の調べ方

気になる助成金等が見つかったら、「募集要項」から制度の概要を確認しましょう。

- 申請内容は、助成金等制度の目的、助成財団等が達成したいことと合致しているか
- 申請内容や申請団体は、制度の対象、制約条件に当てはまるか
- 申請締切や助成対象期間等のスケジュール等

趣旨や審査基準、過去の助成実績から、財団等のねらいや好みを分析することができます。

気軽に問い合わせよう

分からないことがあれば、事前に財団等に問合せ相談することができます。財団等は市民活動団体と助成金だけのつきあいを越えた関係を望んでいます。積極的に連絡してみましょう。

サポセンでも、申請書の書き方や、採択後の活動の進め方、報告の仕方等についてご相談を承っております。

◆南部市民活動サポートセンター TEL.0182-33-7002

秋田県ボランティア・NPO 活動ニュース県南版

ハンサン

2014年6月10日発行
6月号 VOL.92

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王西四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南 NPO センター (南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00
土 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始 (12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail.ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/hg030001



編集スタッフの VOL.02
つばやき

コーディネーター
奥 ちひろ

水も張ったばかりの、きらきら光る田んぼが好きです。土もかく春のにおい。慌しく動き始める様に、なんだか元気を頂きます。

去年から、自宅の畑で野菜づくりを始めました。朝夕の水やり、わき芽かき、虫や病気のチェックなど、やらなければならぬことがたくさん。それでも、実りの喜びに勝るものはありませんでした。自分でやってみたことで、それまであまり気にすることのなかった食や農業のこと、生産者の気持ちに少しだけ想いを巡らせる機会が増えたような気がします。今までやったことのないことでも、まずはやってみる。それだけで、これまでは見ることのできなかった世界が広がっていきます。あなたにとって、この情報誌が、新しい世界への招待状となることができたら嬉しいです。